「いちじくの君へ」

日付 2023/06/27
バージョン 6.20

作者名：ぬぬぬぬ

「いちじくの君へ」登場人物表

奈々（１８）	古典文学を好むインドア派な高校３年生。口下手。
美優（１８）	奈々の友達。元気でアウトドア派な高校３年生。大学を目指すも、成績が伸びず補講を受ける。
友達（１８）	美優の友達。美優と同じ大学に入るために美優と共に補講に励む。

1.　【2階　201教室】8月17日・昼・内

奈々（18）、教室の窓際で本を読む。

奈々（M）「昔の人が残してくれた世界が好き。」

奈々、深いため息をつく。

奈々（M）「情緒溢れる言葉の重なりが文字の世界に深い色をつけるから。」

美優（18）、教室に入る。

美優、奈々の前の椅子に立つ。

美優「奈々〜。またそんな本読んでいるの？」

奈々、顔を上げ、美優を見上げる。

奈々「もういいでしょ？ほっといてよ。」

美優「またそうやって本にばっかり。なんで窓開けないの？暑いよ今日。」

美優、窓を開ける。

奈々「気にしてないから。」

美優、椅子に座る。

美優「奈々は補講とか受けてないの？」

奈々「別に。」

奈々、本を読みながら答える。

美優「頭いいって羨ましいなぁ。今度勉強教えてよ。」

奈々「時間があればね。」

美優「そんなこと言わないでさ。……あ！最近の本とか読みな？面白いよ。」

美優、スマホを取り出す。

美優、スマホ画面を見せる。

美優　「これ！おすすめのアウトドアの本で読んだら行きたくなるんだよね。奈々ってキャンプとか」

開いている窓から蝉時雨が降る。

奈々、美優が言い切る前に被せて話す。

奈々　「だから興味ないってば。」

奈々、美優のスマホを押し返す。

美優、スマホが床に落ちる。

蝉が一斉に泣き止む。

奈々　「ごめん。」

美優　「……。」

奈々　「……。」

美優、スマホを強く握る。

美優　「興味ないって……。興味ないって何なの？私だって……。」

美優、荷物をまとめて出ていく。

2.　【2階　201教室前廊下】8月18日・昼・内

美優M　「昨日から夏休みの教室が静かになった。」

美優M　「この静かさは鈍感な私にしか分からない。」

美優と友達（18）、廊下を歩く。

美優、スマホのカレンダーにバツを書く。

友達　「何書いてンの？あ！もしかして別れた日から書いているとか？」

美優　「……まあ？そんなところ。」

友達　「え？まじ…。なんかごめん。」

美優、ドアから教室を覗く。

美優　（小声で）「もう来ないのかな。」

友達　「え？やっぱ未練あるんだろ。でも俺らもう受験近いわけだし。……な。」

美優　「……。」

美優、友達を小突く。

3.　【2階　201教室】8月18日・昼過ぎ・内

奈々（M）　「いつからか…夏休みの学校が静かになった。」

奈々（M）　「きっと学校が始まる前の、嵐の前の静けさ。」

締め切られた教室は廊下に響く生徒の声と紙をめくる微かな音で満ちている。

奈々（M）　「遠くで補講を受けている学生の声も微かな雑音のように。」

奈々、本を読む。

奈々、ドアを見る。

奈々　（小声で）「せっかく勉強しようと思ったのに……。」

【2階　201教室前廊下】8月19日・昼・内

美優と友達、廊下を歩く。

友達　「今日の補講、あんま関係ないしサボって飯行こうぜ。」

美優　「だめだよ。大学行くんでしょ？」

友達　「だよな～。」

美優、教室を覗き込む。

美優、スマホのカレンダーにバツを書く。

【2階　201教室】8月20日・昼・内

奈々、一人で本を読む。

奈々、教科書を机に置く。

奈々、スマホで時間を見る。

4.

【2階　201教室前廊下】8月21日・昼・内

美優と友達、廊下を歩く。

美優、スマホのカレンダーを開く。

友達　「おまえまた……。」

美優、教室を覗き込む。

美優　「奈々！」

奈々、走って教室を出る。

奈々、廊下に手紙を落とす。

美優　「奈々！待って！」

美優、手紙を拾う。

友達、追いかけようとする美優の腕を掴む。

友達　「美優、何してんだよ？補講遅れるぞ。今日の補講は大事なんだって言ってただろ？」

美優　「今は…。今は大丈夫だから！」

美優、奈々を追いかける。

友達　「あ…おい！一緒の大学行くんだろ。……先に行くからな。」

友達、補講へ向かう。

5.

【1階　階段裏】8月21日・昼・内

奈々、一人で座りこむ。

奈々、涙が出る。

美優、奈々を見つける。

美優　「奈々！　これ…。読んだけど、奈々の気持ちが分からなかったわけじゃないよ。私も……。私も謝りたかった。だから……。」

美優　「あのさ、一緒に！」

奈々、美優の言葉に被せるように話す。

奈々　「ごめん……ごめん。美優の、美優の声が分からないの。」

奈々、涙が流れる。

美優　「え？」

蝉の鳴き声がとめどなく鳴り響く。

美優　「ごめん…。ごめんね。奈々。」

奈々　「美優のせいじゃないから泣かないで。」

美優　「分かってはいたけど。分かっていたはずだったのに……。」

美優　「もっと奈々としっかり話せたら、もっと……。」

○（回想）【２階　２０１教室】４月XX日・昼・内

奈々、一人で読書をする。

美優、後ろを振り向く。

美優　「ねえ！何読んでるの！」

○（回想）【２階　２０１教室】４月XX日・昼・内

奈々、一人で読書をする。

美優、奈々の前の椅子に座る。

美優　「ねえ奈々！遊びに行こ？」

○（回想）【２階　２０１教室】４月XX日・昼・内

奈々、一人で読書をする。
美優、奈々の隣に座る。

美優　「私たちもう3年生だね。ねえ…。」

（回想終了）

奈々、涙を流す。

奈々　「ねえ。」

美優　「どうしたの？」

奈々　「私たちもう3年生だったね。」

美優　「覚えていてくれてたんだ。……今からでもきっと遅くないよ。」

美優、奈々の手を引っ張り教室から出る。

奈々　「なに？」

6.　【森林公園】8月21日・昼過ぎ・外

奈々、美優に連れられ後ろを歩く。

奈々　「どうしたの？」

奈々、足を止める。

美優　「奈々、いつもありがとう。いつもどんなときも私は奈々に助けられていたんだ。」

奈々　「わからないって言ってるでしょ！」

公園に響く音が一斉に止む。
美優、奈々の言葉に被せるように話す。

美優　「だから、聞いてよ。」

美優、奈々の方へ振り向く。

美優　「松ケ根の、岩田の岸の夕涼み。」

奈々　「君があれなと思ほゆるかな……ってあれ？なんで知っているの。」

美優　「……聞かないでよ。」

美優、奈々の手を握る。

美優　「ねえ、奈々？」

奈々　「なに？」

美優　「私、奈々と……。」

奈々　「うん、私も遊びたい。美優と一緒に。」

7.　【学校　教室】10月某日・昼過ぎ・内

美優と友達、補講を受ける。

美優N　「私たちはあの夏の終わりを最後に互いの進路のために離れていった。私は奈々への思いを秘めたまま月日は過ぎて、世界の熱だけは冷めていく。」

美優、ため息をつく。

友達　「なあ、結局ほら、どうなったんだよ。」

友達、親指を見せる。

美優　「あ〜。まあなんとかって感じかな。」

友達　「なんだよ。」

美優　「もしかして心配してくれたの？」

友達　「違えよ。」

美優　「私は心配してるんだよ。」

友達　「俺のこと？」

美優　「違う！」

先生　「おい、集中しろ。」

美優　「はーい。」

8.　【美優の実家】8月半ば・昼過ぎ・内

美優、荷物整理をする。

美優　「懐かしいなぁ。」

美優、高校の卒業アルバムを手に取る。

美優、寄せ書きページをめくる。

美優　「3年前……。楽しかったなぁ。」

美優、奈々の寄せ書きを見る。

美優　「今何やってるのかな。」

窓から蝉の鳴き声が美優の部屋に響く。

美優　「お母さん、ちょっと出かけてくる。」

9.　【森林公園】8月半ば・昼過ぎ・外

美優、公園に着く。

美優　「……やっぱり、いないよね。」

美優、公園から出ていく。

美優、奈々とすれ違う。

奈々　「……美優？」

美優　「奈々？」

奈々、涙ぐむ。

奈々　「話したいことが沢山あるの。」

美優　「私も奈々と会えなかった3年間のこと、たくさん話したい。」

（終わり）